

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 5 報
千葉県農林水産部
平成 24 年 7 月 26 日

● 高温が続くときは、水管理に注意を！

● 早期落水を防止し、適期収穫で高品質米生産を！

[生育概況]

7月中旬は気温が高く、日照も多かったため、出穂期はやや早～並みとなっています。生育の早い県南地域では、4月20日植え「ふさおとめ」が7月10日、「ふさこがね」が7月12日、「コシヒカリ」が7月16日、5月1日植え「コシヒカリ」が7月26日に出穂期となっています。

7月第5半旬の低温と日照不足によって登熟の進みはやや遅れ気味であり、一番生育の早い県南地域の成熟期は、「ふさおとめ」が8月14日頃から、「ふさこがね」が8月20日頃から、「コシヒカリ」が8月25日頃からと予測されます。

また気象庁によると8月1日からの1週間は気温が平年よりかなり高くなると予想されています。品質の良い米を生産するため、湛水管理を徹底し、早期落水はやめましょう。

表 1 品種別の生育遅速と成熟期の予測

品種	植付時期	出穂期の 平年遅速	成熟期予測			
			県北	九十九里	内湾	県南
ふさおとめ	4月20日頃	やや早～並	8月20日～	8月18日～	8月17日～	8月14日～
ふさこがね	4月20日頃	やや早～並	8月25日～	8月23日～	8月22日～	8月20日～
コシヒカリ	4月20日頃	やや早～並	9月1日～	8月28日～	8月27日～	8月25日～
	5月1日頃	やや早～並	9月3日～	9月2日～	9月1日～	8月30日～

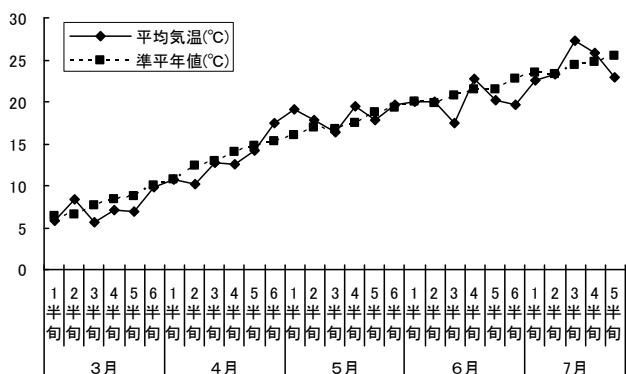


図 1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

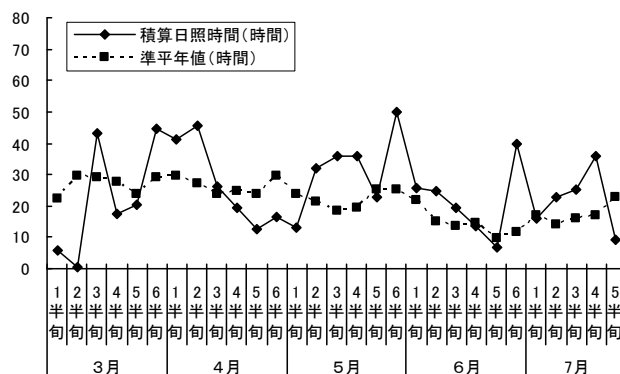


図 2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■ 適正な水管理の徹底

出穂 2 週間後までは湛水管理。その後は間断かんがいを行い、早期落水はやめましょう。

米粒の充実と品質向上のためには出穂後 25 日までは水が必要です。登熟期の水不足は減収と乳白米等白未熟粒の多発生による品質低下の原因になります。

気象庁によると、8月1日からの1週間は気温がかなり高くなると予想されているので、湛水管理をしっかりと行き、品質の低下を未然に防ぎましょう。

田をよく見回って適正な水管理を徹底しましょう。また、早期落水は絶対にやめましょう。

<今後の水管理の基本>

○出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理（この期間は田面が露出しないように管理）

※自然由来のカドミウムを吸収を抑えるために必要な技術です

※出穂期～出穂 2 週間後は米の品質を決定する重要な時期なので、高温対策としても必要な技術です

○出穂 2 週間後から出穂 25 日後までは間断かんがい（早期落水を行わない）

■ 斑点米のカメムシ類の防除

ほ場をよく見回って、早期発見・適期防除に努めましょう。

○出穂期に、カスミカメムシ類やクモヘリカメムシ成虫等が飛来していないか、ほ場を良く見回り、成虫が多い場合には防除を実施する。特に出穂の早いほ場では、成虫の飛来に注意する。

○一度防除を実施したほ場でも、その後に侵入した成虫やふ化した幼虫によって被害が発生する可能性があるため、ほ場内でのカメムシ類の発生状況に注意する。

○主な防除薬剤は次のとおりである。最も防除効果が高い時期は、幼虫発生初期である出穂 15 日後ごろである。薬剤の使用基準（収穫前使用日数）を厳守する。

表 2 カメムシ類の主な防除薬剤

薬剤名	有効成分名	10a 当たり散布量	使用時期/回数
エルサン粉剤 3DL	PAP	3kg	収穫 7 日前まで/2 回
スミチオン粉剤 3DL	MEP	3~4kg	収穫 21 日前まで/2 回 (注: 出穂前散布は 1 回まで)
スミチオン乳剤 1,000 倍液	MEP	60~150 リットル	収穫 21 日前まで/2 回
トレボン粉剤 DL	エトフェンブロックス	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回
MR, ジョーカー粉剤 DL	シラフルオフエン	3~4kg	収穫 7 日前まで/2 回
MR, ジョーカーEW 2,000 倍液	シラフルオフエン	60~150 リットル	収穫 14 日前まで/2 回
ベストガード粉剤 DL	ニテンピラム	4kg	収穫 14 日前まで/4 回
スタークル/アルバリン粉剤 DL	ジノテフラン	3kg	収穫 7 日前まで/3 回
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍液	ジノテフラン	60~150 リットル	収穫 7 日前まで/3 回
ダントツ粉剤 DL	クロチアニジン	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回
ダントツ水溶剤 4,000 倍液	クロチアニジン	60~150 リットル	収穫 7 日前まで/3 回
エルサンバッサ粉剤 20DL	BPMC、PAP	3~4kg	収穫 7 日前まで/2 回

※ 同一成分を含む薬剤は使用回数に注意する。

■ いもち病の防除

葉いもちは穂いもちの伝染源となります。止葉などの上位葉に病斑が多数見られる場合は、穂への感染が助長されるので早急に防除を行いましょ。

- 穂いもち防除は予防が重要であり、発病してからでは手遅れとなることが多い。
- 出穂前、葉に進行型病斑が多数みられた場合は、直ちに表 3の防除薬剤のいずれかを散布する。
- 出穂期に入っても上位葉に病斑が多くみられる場合は、表 3の薬剤（乳剤、粉剤、液剤等）を散布する。
- 出穂期以降もさらに発生が続くときは、天候等を考慮した上で、乳熟期頃にも追加散布を行う。
薬剤の使用基準（収穫前使用日数）を厳守する。

表 3 いもち病の主な防除薬剤

薬剤名	10a当たり使用量	使用時期/使用回数	作用性
コラトップ粒剤5 コラトップジャンボ	3~4kg 10~13個	穂いもちに対しては出穂 30 日~5 日前まで/ 2回	予防
フジワン 粒剤	3~5kg	穂いもちに対しては出穂 30 日~10 日前に湛 水散布。ただし収穫 30 日前まで/2回	
フジワン 粉剤DL フジワン 乳剤	3~4kg 1,000 倍/120~150リットル	収穫 14 日前まで/2 回	
ラブサイド粉剤DL	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回	
キタジンP粒剤	3~5kg	穂いもちに対しては出穂 20 日~7 日前まで/ 2回	
〔耐〕アチーブ 粒剤7	3~4kg	穂いもちに対しては、出穂 30 日~5 日前に湛 水散布。ただし収穫 21 日前まで/3回	
〔耐〕アチーブ 粉剤DL 〔耐〕アチーブ MC	3~4kg 2,000 倍/120~150リットル	収穫 14 日前まで/3回	
カスラブサイド粉剤DL	3~4kg	穂揃期まで/2 回	予防・ 治療
ノンプラス 粉剤DL ノンプラス フロアブル	3~4kg 1,000 倍/120~150リットル	収穫 21 日前まで/2回	
ブラシン 粉剤DL ブラシン フロアブル	3~4kg 1,000 倍/120~150リットル	収穫 21 日前まで/2回	
カスミン 粉剤DL カスミン 液剤	3~4kg 1,000 倍/120~150リットル	穂揃期まで/2 回	治療

※ 〔耐〕：MBI-D 剤（ウィン、デラウス、アチーブ）に対するいもち病の耐性菌の発生が、西日本を中心に他県で広く確認されている。

■ 農薬の飛散防止

農薬の散布に当たっては、周辺への飛散防止のため、次の事項に注意しましょう。

- 風の弱いときに風向きに注意して散布する
- 散布の方向や位置に注意する
- ドリフト低減ノズルなど適切なノズルを用い、適正な圧力で散布する
- 適正な散布量で散布する
- タンクやホースの洗浄を徹底する
- 近接する住宅や作物の生産者等と連携する
- 緩衝地帯を設ける
- 遮蔽物を設ける
- 飛散しにくい農薬や剤型を選ぶ

■ 適期収穫

良品質米の生産のため収穫は適期に行いましょう。

収穫は登熟状況を十分に観察し、帯緑色歩合 15%の時にいきましょう（注：帯緑色歩合は生育中庸な 10 株から中位の穂を選び、不稔歩合を除いて数えます。図3参照）。

なお、各品種の収穫期の目安は、出穂期（全穂数の 40～50%が出穂した日）から、「ふさおとめ」で 33 日前後、「ふさこがね」で 37 日前後、「コシヒカリ」で 38 日前後です。早刈りでは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させます。

また、収穫した籾を 3 時間以上炎天下に放置しておく、品質が低下します。収穫後は速やかに乾燥しましょう。

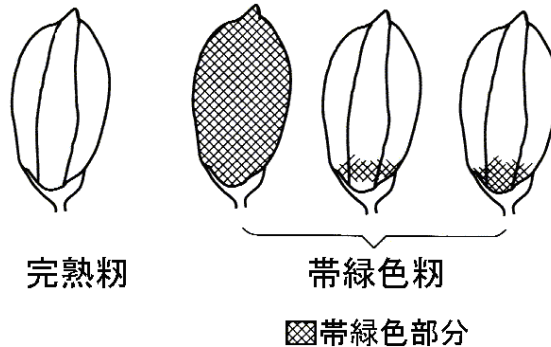


図 3 帯緑色籾の見分け方

■ 仕上げ水分

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥は平均每時乾減率 0.7～0.8%で行い、仕上げ水分は 14.5～15.0%とします。

また、籾摺りは、乾燥終了直後の、籾の温度が高い状態で行うと肌ずれ米や胴割米を生じるので、十分放冷し、温度を下げてから行ないましょう。

■ 選別には 1.8mm 以上の網目

粒厚 1.8mm 以上の米はタンパク含量が低く、美味しいお米です。粒厚が小さい米の混入はタンパク含量を高める原因になるので、選別の網目は、1.8mm 以上にしましょう。

また、大粒が特徴の「ふさのもち」については、1.9mm 以上にしましょう。

■ 異品種混入の防止

異品種の混入を防止するため、コンバイン、乾燥機、籾すり機をていねいに清掃しましょう。

■ 生産履歴記帳

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。集荷団体では、出荷に当たって「生産履歴」（栽培管理記録簿）の提出をお願いしています。もう一度記録簿を確認しておきましょう。



図 4 ふさこがね（4 月 20 日植え）
7 月 26 日（千葉市緑区刈田子）の様子

平成24年産「米」の

放射性物質検査を実施します

お願い

市町村ごとに実施する

**全ての検査結果が判明し、
安全性が確認されるまで、
お米の出荷・販売・譲渡・贈答は
しないでください。**



千葉県マスコットキャラクター
チーバくん

県では、全市町村を対象に、国、市町村、生産者団体等と連携し、米の放射性物質検査を行います。

市町村毎に平成24年産の米について、抽出して放射性物質の検査を行い、市町村内の全ての結果が基準値の100Bq/kg以下であった場合に、出荷・販売・譲渡・贈答ができるようになります。

※ ただし、検査結果が100Bq/kg以下であっても、50Bq/kgを超えた場合は、さらに密度を引き上げた追加検査を実施しますので、ご協力をお願いします。

追加検査を実施する場合には、全ての結果が基準値の100Bq/kg以下と判明して初めて、出荷・販売・譲渡・贈答が可能となりますので、市町村からの連絡を待って、出荷・販売等するようお願いします。

千葉県は全国有数の早場米の産地です。

市町村からの出荷自粛解除の連絡をきちんと待って、安全性が確認されたお米を消費者に提供していきましょう！